

日本ガーデンデザイン専門学校の紹介

日本ガーデンデザイン専門学校

佐々木 秀典

1. 自己紹介

私は岩手県盛岡市に生まれました。幼少時代の主な遊び場であった庭には多くの草花や樹木があり、そこで熱心に庭いじりする両親や祖父母の姿を見ながら育ちました。漠然と植物には人を惹きつけ夢中にさせるような、何かがあるのだろうとは思っておりましたが、その何かについてもっと詳しく知りたい、より深い植物の知識を身につけたいという思いを抱くようになり、千葉大学園芸学部に入学いたしました。大学時代は安藤敏夫先生をはじめ、教官の皆様のご指導のもと、ペチュニアの花色素に関する研究をし、2009年に大学院を修了しました。現在は神奈川県藤沢市にある、学校法人湘南みどり学園日本ガーデンデザイン専門学校（以下、日本ガーデンデザイン専門学校）で勤務しています。

2. 日本ガーデンデザイン専門学校について

日本ガーデンデザイン専門学校はガーデンデザイン科からなる2年制の専門学校です。社会に出てから即戦力となる人材を育成するために、実習を重視したカリキュラムを組んでおります。全体授業時間の2/3にもおよぶ実習により、2年間という短い時間でスキルを効果的に身につけることが出来ます。

入学してから1年間は花や土の性質や環境など、「庭」と「花」の両方の知識と技術を総合的に学びます。2年次に進級する際にガーデンデザインコースもしくはフラワーコースを選択し、一層の幅広い知識と技術を身につけます。知識を行動に活かせる、社会に出てからも頼られる植物の専門家を目指します。

ガーデンデザインコースでは庭づくり、みどりの管理技術を学びます。個人邸の小さな空間、都市のオープンスペース、伝統的な日本庭園、草花を活かした花の庭など、様々なシチュエーションに応じた魅力的な空間を創造・管理できる人材の育成をします。庭のプランから施工、管理までの一連の工程について多くの実習を中心学びます。

フラワーコースでは、花の総合的な知識・技術を学

びます。ガーデニングの基礎となる植物の「栽培・管理」の技術に加えて、花を仕事にする上で必要な「流通・販売・接客」の知識を学びます。育てた草花や苗木を活かした四季折々の花壇の設計や制作、アレンジメントや寄せ植え、ハンギングバスケット等の制作も行い、庭づくりの視点からも花の知識や技術を深めます

3. 「実習」、「資格取得講座」、「海外研修」で即戦力の人材を育成

日本ガーデンデザイン専門学校への入学者は高校卒業者だけでなく、改めて入学し直す大学卒業者や社会人が多くなっています。「手に職をつけたい」「そこでしか学べない内容がある」というような目的意識や、学びたい分野が明確な入学者が年々増えているように感じます。授業内容は実践力に重点を置いているところが特徴的で、大学よりも、より就職先の企業・団体に近い目線で学ぶことができます。

「実習」、「資格取得講座」、「海外研修」を通して短時間で即戦力となるスキルと人材を育成しております。

実習の場は学内だけにとどまらず、外部の企業や団体との連携により、公園や庭園で就職を意識した実習を行っています。

「神奈川県立辻堂海浜公園」は、目の前に湘南の海が広がる県立公園です。花苗や球根の植え付けなど、公園の年間管理をもとに実習を行います。



神奈川県立辻堂海浜公園での花植え

「三渓園」は、横浜にある国指定名勝の日本庭園で、国内だけではなく海外からも人気の庭園です。歴史とともに受け継がれてきた、松の剪定をする様子は来園されたお客様にも好評です。緊張と共に、仕事のやりがいも実感することができます。



三渓園での松の管理

このように学外に園芸、造園を学べる豊富な実習先があり、実際に現場で求められていることを経験できる、技術と知識を身に付けられるということも特徴です。

また、資格取得に特化した授業を学べるというポイントがあります。最短で国家資格を取得、あるいはそのための受験資格を満たすことができます。国家資格である造園技能士・園芸装飾技能士・フラワー装飾技能士の全員取得に向けて「資格取得講座」を設けています。実技課題は反復して訓練を行い、学科問題は集中的に学習を行います。試験直前は特別訓練も実施しております。1年目に3級、2年目に2級取得を目指します。



造園技能検定訓練の様子

2年次にはイギリスへの研修旅行を実施しています。様々な花が咲き1年で最も美しいと言われる5月下旬に、イギリスを代表する名園を巡ります。その他にも、世界中から著名な園芸家たちが集い最先端のガーデン

ガーデンデザインを出展するチャルシーフラワーショーや、王立植物園の見学もします。ホームステイをしながらの研修ですので、一般家庭のお庭の管理を学ぶ機会もあります。海外に出ることで広い視野と国際的な知識を身につけることができます。植物を学んでいる仲間で行く海外研修だからこそ感動の共有があります。

4. 各種ガーデンショー、コンテストへの挑戦

実習、資格取得、海外研修を経てどのくらいの実力が身に付いたのか試してみたい、という学生のやる気をサポートするべく、各種コンテストへの参加を応援しております。

「日比谷公園ガーデニングショー」

東京都心のオアシス、日本初の近代洋風公園である日比谷公園で、「花と緑・環境」のメッセージを世界に発信し、花と緑のライフスタイルを提案する、日比谷公園ガーデニングショーへの挑戦は自分の実力を確認できる大きなイベントです。2014年度からライフスタイルガーデン部門へ連続出展をしております。



日比谷公園ガーデニングショー2014
ライフスタイルガーデン部門

「2019日本フラワー&ガーデンショー」

パシフィコ横浜にて行われた、国内最大級の花と緑に関する総合園芸パブリックショウで、2019年度のメインガーデン（テーマフラワー展示）の企画、制作に携わり、1年生と2年生で協力して施工しました。また、ガーデニングコンテスト（ミニガーデン部門、コンテナガーデン部門、ハンギングバスケット部門）にも挑戦しました。



2019日本フラワー&ガーデンショー
メインガーデン

5. みどりのプロフェッショナルを目指して

私は現職に赴任して以来、花卉園芸の指導を担当しております。植物に興味はあるものの、これまでほとんど植物に触れてこなかったという学生も多いので、まずは種子を播いて花を咲かせてみようという授業を行っております。一つの植物の成長を追うことにより、栽培に必要な管理のタイミングを学んでいきます。学生の興味の対象は花苗だけでなく、樹木であったり、切り花であったりと様々ですが、植物のプロフェッショナルを目指すからには、どんな植物であっても自分の栽培に責任を持ち、しっかりと植物を育てられる人間にならなければいけないということで指導しております。実習がメインの専門学校でありますから、座学の指導もしております。植物を育てていくうちに生じてきた様々な疑問、それは温度・日照・土の種類・肥料の種類・病害虫の種類や防除の方法など、栽培に必要な知識であります。それらを座学で詳しく勉強していきます。座学で学んだことを次の実習で生かしてみよう、そして実習でわからなかつたことが出てきたらそれをまた座学で補い、植物を育てる技術と知識を身につけていきます。

学生は授業で育てた植物を花壇やコンテナなどに利用して装飾をしていくにつれて、様々な形の植物を組み合わせて空間をデザインしていくことの楽しさに目覚めていきます。草姿や花色などが多様であればそれだけデザインの幅も広がっていきますので、なるべく多くの種類の植物を育てるようにしています。また、季節によってもデザインに用いる植物の選択は変わってきますので、扱う植物の数は日に日に増えていきます。

現職に赴任してから、造園分野の授業で庭園の管理や施工を見る機会が増え、これまでよく分からなかつ

た造園の現場を知ることができました。植物を育てるだけではない、育てた後どのように植栽するか、植栽した後の管理を考えたらどのような花苗に仕上げていけばよいのか、そして庭に、花壇に、どのような提案ができるのかということを考える必要があります。

実習やコンテストに参加していくうちに、とても多くの植物が空間デザインに使われているということに気づき始めます。庭・花壇に利用される植物の多さを目の当たりにした学生は、どれだけの植物を覚えれば、みどりの提案をしていけるようになるのだろうかと考え始めます。そんなときに頼りになるのが花産業必修1000属検定です。1000属検定のリストにより、どの花の名前から順番に覚えていければよいかが分かりますので、教育の現場にとってありがたい指針となっています。熱心な学生も多く、休み時間や放課後に学生同士で植物勉強会を開いている様子が見られます。仕事をするうえで、相手となる植物の名前を正確に覚えることがプロフェッショナルへの第一歩であります。

6. 今後の展望

新しい知識・情報・技術の重要性が飛躍的に増し、移り变りが激しい現代、即戦力となる人材が求められております。そのような人材育成に対応するために、より実践的な教育が必要となり、知識・技術を実際の現場で活かせるような力を身に付けさせることが重要になってきます。連携先の企業や団体との協力のおかげで、現場で求められている知識と技術、最新の情報を授業に活かすことができ、教育の質の向上を図ることができます。植物の機能は様々あり、我々の暮らしに何らかの良い影響を与えてくれ、人を引き付ける魅力も多数存在します。植物が好き、植物に関わる事がしたい、花と緑の分野で活躍したいという学生の希望を実現するために、園芸・造園を含めた植物に関わること全般についての実践力を持った人材を育成する教育現場として機能するようこれからも務めていきたいと思っています。